

施策の方向 III-3 生物多様性の保全

指 標	方目標・現状・指標がめざす向
自然観察会等実施状況	【現状】生田緑地観察会：年36回開催 ほか（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
市内の動植物等確認種数	【現状】植物：1,451種、鳥類：166種以上 ほか（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
保全管理計画作成地区数	【現状】17地区（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い

目 標 ・ 指 標 の 達 成 状 況	指 標 評 価	方 向 評 価
■指標：自然観察会等実施状況 ・生田緑地観察会：30回開催 ほか（対前年度：6回減少、対基準年度：少ない）	なし	2
■指標：市内の動植物等確認種数 ・植物：1,464種、鳥類：179種、哺乳類：14種、爬虫類：13種、菌類：455種 （対前年度：増減なし、対基準年度：増加）	2	
■指標：保全管理計画作成地区数 ・栗木山王山特別緑地保全地区など21地区の保全管理計画を策定 （対前年度：2地区増加、対基準年度：多い）	3	

現 状

■自然観察会等実施状況

植物や昆虫、野鳥等の観察会を年30回開催しました。

■市内の動植物等確認種数

市域には次のような動植物等が生息しています。

地 域	種 類
生田緑地	クヌギ、コナラ、イナブナ、ミズキ、トナリ 等の落葉広葉樹林、谷戸奥はハシバの群落
東高根森林公園	シラカシ、アサギ、ウツギ等の常緑広葉樹林
早野の丘陵	主としてコナラ、クヌギの二次林、自然植生も残存、谷地にはハシバの群落やクヌギ類
黒川の丘陵部	コナラ、クヌギの二次林を主体にシラカシ等の自然植生残存
久未緑地	コナラ、トナリ、トナリ、ミズキを主体とした落葉広葉樹林、クマツツミ、モリナクサ竹林
多摩川河口部	シオガタ、ウツギ等の塩沼植生

・鳥 類（全市：15目41科179種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

地 域	名 称
臨海部	シギ・チドリ 類 等
内陸平野部	ウグイス、コサギ 等
北部丘陵部	ミソゴイ、オオタカ、ヤマガラ 等

・小動物（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
哺乳類	全市：5目7科14種 タヌキ、ノウサギ、イタチ、アブラコウモリ 等
両生類・爬虫類	全市：4目12科22種 ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、アオダイショウ、カナヘビ 等

・魚 類（全市：8目17科50種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

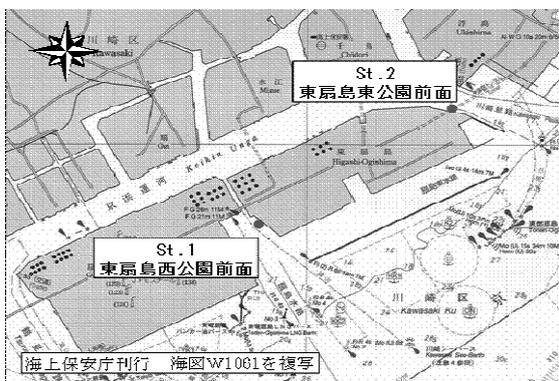
種 類	名 称
魚類	ホトケドジョウ、アユ、オイカワ 等

・昆虫（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種類	名称等
トンボ	全市：55種類 モートナイトトンボ、シオカラトンボ等
チョウ	全市：71種類 ウラナミアカシジミ、ベニシジミ等

・水生生物（出典：川崎市公共用水域水質測定事業(市計画)(多摩川河口干潟における魚類調査)報告書(H24.1～3)、川崎港親水施設生物相調査業務委託報告書(H23.5・H23.12)）

地域	名称
多摩川本川	マダヒ、ヒメヒ等(1月)アソヒ、ア、スギ等(2月)ホウ、イガヒ等(3月)等の魚類
川崎港親水施設	ハル、シマヒ、タケツキ等(5月)ダナ、ウツリ、カガイ、ヒ、ハル、マカヒ等(12月)の魚類 アゴ、イガニ、マナコ等(5月)、ミドリガイ、カキ、イカクモガニ等(12月)の魚類以外の水生生物



川崎港親水施設生物相調査地点



川崎港親水施設のダイナンキンポ

■保安全管理計画作成地区数

特別緑地保全地区及び緑の保全地域に指定された緑地は、恒久的に緑の保全が図られることとなりますが、将来に向けて良好な自然的環境を維持していくためには適切な管理が欠かせないことから、動植物の調査等を踏まえて管理のあり方を定める必要があります。

このため、市では地域住民等との協働により保安全管理計画を作成し、保全緑地の適正な維持管理に役立てています。

また、作成した管理計画に基づいて、下草刈りや竹林の伐採等、保全緑地の適正な維持管理を実践するために、この管理計画づくりに参加した方々を中心とした市民活動団体が誕生しています。

これまでに、栗木山王山特別緑地保全地区など21地区の保安全管理計画を策定しました。

具体的施策事業の概要

施策の方向

施策の柱

Ⅲ-3 生物多様性の保全

Ⅲ-3-1 生物多様性の保全

Ⅲ-3-1 生物多様性の保全

Ⅲ-3-1-1 自然に関する情報の収集・整理・活用

具体的施策名	2011(平成23)年度実績	2012(平成24)年度計画等
「自然環境調査」等による現存植生や生物生息調査の実施 [環：環境対策課]	□調査実施地区数 ・生物の生息地調査の実施 親水施設調査3地点 ・今後10年の自然環境調査について、	・親水施設調査3地点 ・市域の自然を調査し、資料収集整理し、まとめる。 ・「第8次自然環境調査(1年次)」

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
[環：公害研究所] [教：青少年科学館]	調査計画を構築した。	の実施
市内河川や河口干潟等における水辺生物の調査の実施 [環：公害研究所] [環：環境対策課]	□調査実施地区数： ・市内河川9地点（各1回） ・生物調査4地点（環境対策課分） ・干潟調査1地点（公害研究所分） ・市内河川6地点（公害研究所分） ・東扇島人口海浜生物調査3地点（公害研究所分） ・東扇島人口海浜生物調査11回	・生物調査4地点（環境対策課分） ・干潟調査1地点（公害研究所分） ・東扇島人口海浜調査1地点（月1回） ・東扇島人口海浜生物調査2地点（公害研究所分）
川崎港生物相調査 [環：環境対策課] [環：公害研究所]	□大型海藻草類調査（5か所、年2回）	□川崎港親水施設生物調査 ・希少生物の生息状況の把握
市内の希少な動植物等の生育・生息状況調査の実施 [環：公害研究所]	□動植物の生育・生息状況 ・希少生物調査3地点	□動植物の生育・生息状況：継続 ・希少生物調査3地点（6回）
動植物の生息生育に関する調査手法の検討 [環：環境調整課]	生物多様性地域戦略の策定に向けた作業の中で、調査情報の現状について整理した。	生物多様性地域戦略の策定に向けた作業の中で全市的な生き物の生息・生育に関する調査手法について検討する。

Ⅲ-3-1-2 生息生育空間の保全・創出

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
生物多様性 ^{*65} 地域戦略の策定に向けた検討 [環：環境調整課]	・生物多様性地域戦略の策定に向けて、庁内会議等を設置し、川崎市における生物多様性の保全に向けた基本的な考え方を検討した。	・生物多様性地域戦略の策定に向けて検討を進める。
自然的環境を有する土地における生態系の保全に資する動植物の生息地の保全指針の策定 [建緑：緑政課]	・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川・岡上・早野の回遊性をはかり、「かわさき里地里山トレイルマップ」を作成した。 ・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川地区をリーディング地区として、黒川街道特別緑地保全地区で園路整備を行い、地域団体・農業者と基本的な保全管理の検討を行った。	・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川地区をリーディング地区として、地域団体・農業者と黒川街道特別緑地保全地区での活用を考慮した保全管理手法を検討する。
公共事業の実施において、対象地域内での生物生息・生育環境保全、再生、創出への配慮の推進 [建緑：緑政課] [建緑：公園緑地課]	川崎市緑化指針に基づく指導・助言	指導を継続
民間による開発事業に対する生息地の保全・再生に向けた指導の実施 [建緑：公園緑地課] [建緑：緑政課]	川崎市緑化指針に基づく指導・助言	指導を継続
大規模な開発事業等に伴う環境調査やアセスメントの際に、緑及び生態系の保全・回復への取組の要請 [環：環境評価室]	川崎市環境影響評価等技術指針に基づく指導：助言	継続実施
河川の整備における漁礁ブロック、魚道の設置等、生物の生息環境への配慮の実施 [建緑：河川課]	□設置件数（累計） ・魚道：6か所(+2か所) ・漁礁ブロック：1か所(±0か所)	未定

*69 生物多様性：（巻末用語索引参照）